

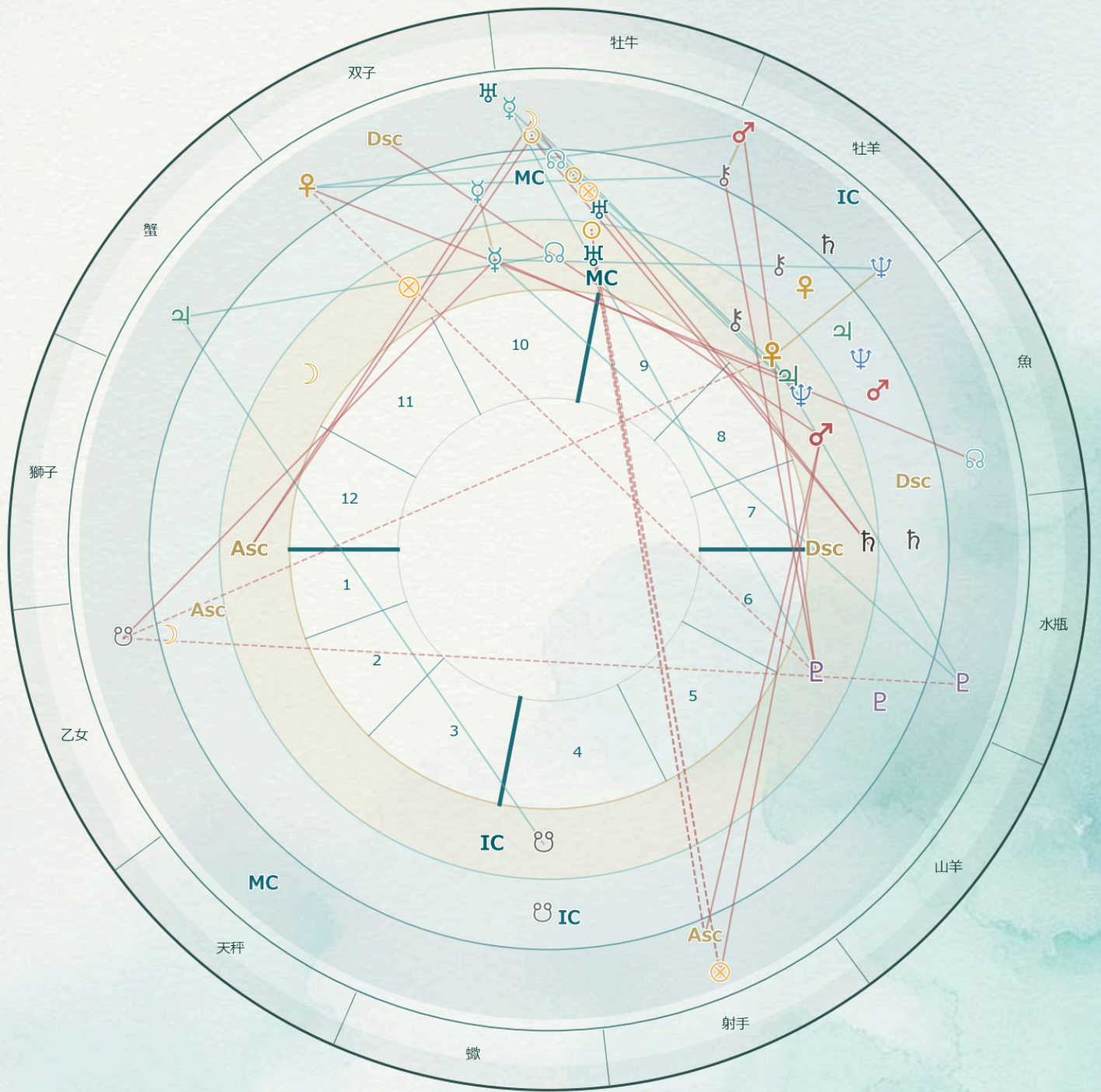
POLAR BIRD ASTROLOGY

Core

新月サイクル分析

月のサイクルから見る今のテーマ

対象期間 2026.05.17 - 2026.06.15



内: 出生 / 中: 進行 / 外: 新月

- | | | | | | | | |
|---|----|---|-----|---|-------------|-----|--------------|
| ☉ | 太陽 | ♃ | 木星 | ⊗ | パートオブフォーチュン | Asc | アセンダント |
| ☾ | 月 | ♄ | 土星 | ♁ | ドラゴンヘッド | MC | MC (ミッドヘブン) |
| ♿ | 水星 | ♅ | 天王星 | ♁ | ドラゴンテイル | Dsc | ディセンダント |
| ♁ | 金星 | ♆ | 海王星 | ♁ | キロン | IC | IC (イムム・コエリ) |
| ♂ | 火星 | ♇ | 冥王星 | | | | |



❖ Coreにとってのこの新月サイクルの中心テーマ

今回の新月は牡牛座25度台で起こり、Coreの第10ハウスを強く照らしています。第10ハウスは、外から見える役割、社会的な位置づけ、エコシステムとして何を担っているかが表に出る場所です。ここに新月の太陽と月が重なるため、このサイクルは、Coreをめぐる価値や方向性を「見える形」にし直す時間として読めます。

中心テーマは、Coreの強みを静かに説明へ戻し、コミュニティが使える輪郭に整えることです。 牡牛座の新月は、急いで広げるよりも、すでにある価値を確かめ、手触りのある形にする力を持っています。Coreの場合、この配置は第10ハウスに入るため、単なる内側の整理ではなく、外から見た印象、説明の安定感、信頼される見せ方に結びつきます。

この新月の水星は、Coreの冥王星にトライン、木星にセクスタイルを作っています。水星は説明、言葉、理解の導線を表し、冥王星は深い構造や変化への集中、木星は広がりや学びの文脈を表します。ここでは、難しい内容をただ簡単にするより、深い仕組みをほどこき、コミュニティが納得しやすい順番で伝えることが支えになります。

一方で、新月の太陽と月は、Coreの外から見える入口と土星の軸にスクエアで触れています。これは、外からの見え方と、関係性の中で求められる責任が同時に強まる配置です。勢いだけで前に出るより、何を約束し、何をまだ観察段階に置くのかを分けるほど、Coreの存在感は落ち着いて伝わります。



❖ Coreの年間テーマとのつながり

このサイクルには、Coreの年間テーマとのつながりがあります。年間図では太陽がCoreの第10ハウスにあり、今年の大きな文脈として、Coreの表に出る役割や社会的な見られ方が強調されています。今回の新月も同じ第10ハウスを動かすため、年間テーマは背景に留まるだけでなく、このサイクルの中心に入りやすい状態です。

年間テーマは、Coreが何者として見られるかを、説明の質で整える方向に出ています。 年間図の海王星とCoreの水星のセクスタイル、年間図のICとCoreの水星のクインカンクスは、理想や背景にある思想を、どう伝わる形にするかを問いかけます。さらにサイクル内では、5月19日前後に水星がCoreの水星に重なり、5月25日前後に太陽がCoreの水星に重なります。これは、説明、文脈づけ、資料化、会話の入口を整える流れとして使いやすい配置です。

進行の水星もCoreの水星にコンジャンクションしており、今回の水星テーマを背景から支えています。これは月内の出来事を断定する材料ではなく、Coreの説明体系や伝え方が、少し長い時間をかけて更新されていることを示す補助的な文脈です。短期のリズムと長めの整理テーマが重なるため、このサイクルでは、急に新しい主張を増やすより、既にある考えをわかりやすく組み直す方が合っています。

年間図のDSCは、Coreの月にクインカンクスで触れています。この関係性は、このサイクルでは6月3日前後の金星とCoreの月のコンジャンクション、6月14日前後の水星とCoreの月のコンジャンクションで動きます。Coreの月は、コミュニティの受け止め方や場の空気として表れます。ここでは、外に出す説明だけでなく、それがどのように受け取られ、どんな雰囲気を作るかを見ることが大切になります。

また、年間図のASCは、Coreの火星にクインカンクスで触れています。この関係性には、5月25日前後の水星スクエア、6月7日前後の太陽スクエアが重なります。これは、議論の熱量や前に出る力が上がりやすい配置です。Coreの勢いを弱める必要はありません。ただし、強い言い切りや早い反応だけで進めると、意図よりも刺激の方が先に伝わりやすくなります。熱量は、反応の速さよりも、説明の順番と責任ある表現に乗せる方が使いやすいでしょう。



❖ 動きが出やすいCoreの活動領域

動きが出やすい領域は、まずCoreの第10ハウスです。新月の太陽、月、水星がこの領域に入り、年間図の太陽も同じ第10ハウスに重なっています。Coreの活動の中でも、外部から見える役割、何を代表しているか、どのような貢献として認識されるかが焦点になります。

このサイクルの実用ポイントは、Coreの見え方を派手に変えることではなく、見え方を支える説明を強くすることです。 新月の水星がCoreの冥王星にライン、木星にセクスタイルを作るため、表面的な告知より、深い構造を理解しやすい形にする流れが強くなります。複雑なものを薄めるのではなく、なぜそれが重要なのか、どこに価値があるのかを順番に見せることが、Coreの信頼感につながります。

Coreの第11ハウスも動きます。6月3日前後の金星とCoreの月のコンジャンクション、6月14日前後の水星とCoreの月のコンジャンクションは、コミュニティの空気、会話のやわらかさ、受け止められ方に関係します。第10ハウスが「Coreがどう見えるか」なら、第11ハウスは「その見え方を、コミュニティがどう共有するか」です。ここが合わさると、説明は一方通行ではなく、場の反応を見ながら整えるものになります。

6月5日前後には、火星がCoreのMCにコンジャンクションし、同時にICと向かい合います。MCは表に出る方向、ICは見えにくい土台です。この時期は、外に出る動きが強まりやすい一方で、その裏にある基盤や合意の整え方も問われます。Coreの活動としては、勢いをそのまま見せるより、何を土台にして前に出ているのかを添えると、強い動きが信頼されやすくなります。

新月の太陽と月がCoreの外から見える入口と土星の軸にスクエアで触れることも、活動領域を読む上で重要です。入口は外部からの第一印象、土星は境界や責任を表します。このサイクルでは、Coreの印象が強くなるほど、同時に「どこまでが確かなことか」「どこからが観察や解釈か」を分ける力が必要になります。これは弱さではなく、Coreが長く信頼されるための整え方です。



❖ 月相リズムとコミュニティでの動き方

◆ 5月17日 - 5月23日 : 方向を置き、最初の入口をそろえる

新月から上弦までは、方向づけの時間です。5月19日前後には水星がCoreの水星に重なり、説明、文章、会話の入口が動きやすくなります。5月23日前後には金星がCoreの金星にスクエアで触れ、価値の見せ方や、好まれやすい表現と本質的に必要な表現の差が見えやすくなります。

この時期は、伝えたいことを増やすより、最初に何を理解してもらうかを決めるのが合っています。

Coreをめぐる議論で大切なのは、全てを一度に説明することではなく、入口の表現をそろえることです。コミュニティ内で共有される短い説明、比喩、問いの置き方を整えると、後半の動きが扱いやすくなります。

◆ 5月23日 - 5月31日 : 説明を動かし、強い表現を調整する

上弦から満月へ向かう時期は、実際に動かしながら調整する時間です。5月25日前後には、太陽がCoreの水星に重なり、水星がCoreの火星にスクエアで触れます。説明力は強まりますが、同時に言葉が鋭くなりやすい配置です。

ここでは、結論を強く出す前に、根拠と順番を短く添えることが効きます。 Coreについての話題が熱を帯びるほど、断定の強さよりも、何を見てそう言えるのかを示すことが場を整えます。違う見方が出たときも、すぐに勝ち負けへ運ばず、前提を分けると、議論の質が保たれます。

◆ 5月31日 - 6月8日 : 反応を読み、見える動きを扱う

満月から下弦へ向かう時期は、見えてきた反応を確認する時間です。6月3日前後には金星がCoreの月に重なり、コミュニティの空気や受け止められ方がやわらかく見えやすくなります。6月5日前後には火星がCoreのMCに重なり、6月7日前後には太陽がCoreの火星にスクエアで触れます。

この時期は、注目や熱量を、急な押し出しではなく整理された動きに変えることが大切です。 火星とMCの重なりは、Coreの表に出る力を強めます。ただ、その直後に太陽と火星の緊張が入るため、勢いが強いほど、説明不足や反応の速さが目立ちやすくなります。動きを止める必要はありません。見えてきた反応を読みながら、何を前に出し、何を補足に回すかを調整すると、熱量が建設的に使われます。

◆ 6月8日 - 6月15日：熱量をまとめ、次の共有へ渡す

下弦から次の新月までは、見直しと回収の時間です。6月9日前後には火星がCoreの太陽に重なり、Coreの核となる方向性に熱が入ります。6月14日前後には水星がCoreの月に重なり、コミュニティの受け止め方を表現として拾いやすくなります。

最後の一週間は、強く出た反応を、次の説明や合意形成に変える時間です。 この時期に残すとよいのは、ただの盛り上がりではなく、何が伝わり、何が誤解されやすく、どの説明が場を整えたのかという観察です。次のサイクルへ向けて、用語、FAQ、議論の前提、コミュニティ内の共有の仕方を見直すと、Coreの第10ハウスのような存在感がより安定します。



❖ このサイクルをコミュニティで活かすヒント

- ◆ **Coreの価値を語る時は、最初の入口を短くそろえる。** このサイクルは水星が強く働くため、長い説明よりも、最初の一文や前提の置き方が場を左右します。短い入口があるほど、深い内容へ進む人も、初めて触れる人も同じ地図を見やすくなります。
- ◆ **深い構造を出すときは、根拠の順番を見せる。** 新月の水星とCoreの冥王星・木星の関係は、複雑なものを薄めずに伝える力です。結論だけを強めるより、何を見て、どの構造が重要で、どこに価値があるのかを順番に置くと、Coreの説明は信頼されやすくなります。
- ◆ **コミュニティの空気を、次の共有設計に使う。** 金星と水星がCoreの月に触れる流れは、受け止められ方を読む力になります。好意的な反応も、違和感も、次にどの問いを立てるか、どの前提を補うかを決める材料として扱えば、このサイクルの価値が残ります。
- ◆ **外に出る動きと、支える土台を同時に見る。** 火星がMCに重なる時期は、表に出る力が強まります。同時にIC側も刺激されるため、見える動きの裏にある前提、合意、支える仕組みを確認するほど、Coreの発信は安定します。
- ◆ **象徴的な流れは、対話の焦点を選ぶために使う。** Coreをめぐる実際の判断は、公開されている一次情報とコミュニティ自身の確認に委ねる領域です。このレポートは、何を観察し、どの話題を丁寧に扱い、どこで事実確認に戻るかを選ぶための地図として使うのが合っています。



作成基準

対象期間 2026年5月17日 05:01 (JST) - 2026年6月15日 11:53 (JST)

出生図

基準日時 2022年5月6日 19:35 (JST)

基準地 Bratislava, Slovakia

参照した太陽回帰図

年度 2026年

基準日時 2026年5月6日 18:58 (JST)

基準地 Bratislava, Slovakia

新月図

基準日時 2026年5月17日 05:01 (JST)

基準地 Bratislava, Slovakia

方式 トロピカル / プラシーダス / True Node